

■令和3年7月（次）定例記者会見内容

日 時	令和3年6月28日（月）午前11時～正午
場 所	市役所本庁舎第3委員会室
出席者	・市長、総務部長、企画部長、地域創生部長、産業振興調整監、健康福祉部長、企画調整課長、商工港湾課長、交流観光課長、子育て支援課長、健康課長、市長公室長 ・酒田記者クラブ11社（朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、河北新報、山形新聞、荘内日報、NHK、YBC、YTS、TUY、SAY） コミュニティ新聞社（記者クラブの承認により出席）

■市長発表事項

【新型コロナウイルスワクチン接種体制について】

市長／まず最初に、一番目、新型コロナウイルスワクチン接種体制について、12歳から64歳までの方の接種体制について、発表させていただきます。本市の65歳以上の方の高齢者の方への新型コロナウイルスワクチン接種でございますが、今回の議会でもひとしきりご説明させていただいておりますが、酒田地区医師会十全堂、それから地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構から協力をいただいて、市を挙げて取り組んでおります。昨日も市役所の接種会場だいぶ混雑しておりましたけれども、順調に進んでいるものと理解しております。

後程、また資料でご説明しますが、今後64歳以下の方へのワクチン接種を進めるにあたりまして、大規模接種会場を設置するとともに、新たに酒田地区の歯科医師会の皆様からもご協力をいただいて、ワクチン接種を希望される12歳から64歳までの全ての市民が11月末までに接種できる体制を構築することといたしました。具体的には、1日最大で2,250の方が接種できる大規模接種会場を平田農村環境改善センターに設置をいたします。また多様な接種機会を提供するという事で、平日の水曜日、木曜日の午後にも接種日を設けることにしております。

これまで協力をいただいておりました酒田地区医師会十全堂、それから地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構、それに酒田地区薬剤師会、この3つの団体の皆様に加えて、今回、酒田地区歯科医師会からも接種に協力をするという有難いお言葉をいただいております。本市の医療関係者が一体となってワクチン接種を進めるという、加速していくという体制を組ませていただいております。酒田地区の歯科医師会から実施していただいております事前アンケートによりますと、30名を超える先生方から協力表明をいただいております。今後、必要な研修等を実施いただいた上で、9月以降の集団接種に協力いただく方向で現在調整をしております。

それから、集団接種ともう一つの柱でございます個別接種でございますが、これについては65歳以上の高齢者の皆さんに対しましても、市内46の医療機関から協力をいただいている所でございますが、今後このかかりつけ患者に加えて、本市が独自に設けます優先接種職種の方への接種にもご協力をいただけるということになっておりま

す。本市が独自に設けます優先接種職種、その対象職種としましては、酒田地区医師会十全堂からのご意見なども踏まえて、通所介護施設従事者、障がい福祉サービス従事者、保育士、学童保育所の指導員、養護教諭などの方から各医療機関の接種状況等に応じて順次接種いただくことにしております。

市内にある事業所等に勤務する優先接種対象職種の方々に対しては、事業所単位で市が取りまとめたうえで、個別接種されている医療機関との予約の調整を行うことで進めていきたいとこのように考えております。

12歳から64歳までの医療従事者を除く対象者は、後程、別紙でもご説明しますが、約51,700人でございます。ワクチン接種を希望する全ての方が速やかに接種いただけるように、引き続き市を挙げて取り組んで参りたいとこのように考えております。

別紙の資料をご覧くださいませでしょうか。今申し上げましたことを整理した資料になっております。1の集団接種でございますが、会場としては、平田農村環境改善センターを会場として確保いたしました。

接種人数については、水曜日、木曜日は1,000人、土曜日、日曜日は2,250人という体制を組んでまいります。開設期間は8月1日から11月30日まで予定をしております。毎週水曜日、木曜日、それから土曜日、日曜日ということになります。接種時間についてはそこに記載のとおりでございます。

一番関心が高い所の予約の開始時期でございますが、60歳から64歳までの方につきましては、基礎疾患を有する方、それから高齢者施設の従事者の皆さんは7月9日(金)午前9時から、その他の方は7月10日(土)午前9時からということで予定をしております。予約の開始時期をずらさせていただきました。当初の計画段階では、7月9日以降、年代別、接種日別に順次予約受付を開始することとしておりましたけれども、今後のワクチン供給がなかなか見通せないということもございまして、59歳以下の方については、ワクチンの供給量を踏まえて、予約開始の判断をさせていただきたいなどこのように思っております。予約の方法については、電話、インターネット、それから予約代行でございます。

それからもう一つの柱、個別接種についてでございますが、個別接種については46施設で接種が可能となっております。接種対象者についてはですね、原則としてかかりつけ患者が1番目、それから2番目は市が定める優先接種対象職種等の皆さんでございます。市内にある事業所等に勤務する優先接種対象職種の方は、事業所単位で市が取りまとめたうえで、個別医療機関との予約の調整を行うことにしております。この優先接種対象職種でございますが、先程もお話したので重なりますけれども、そこに記載の方々でございます。

裏面をご覧ください。3番目、接種券の送付ですが、接種券は16歳から64歳の方は一斉に7月2日に送付いたします。届くまで若干、1日、2日掛かるかなとは思いますが、7月2日の日に一斉に送付をいたします。

それから12歳から15歳までの方につきましては、7月中旬を目途に接種券を送付する準備を進めております。接種方法等についてはですね、地区医師会と協議をしております。

まして、決定次第対象者の皆様を含めてお知らせをすることにしております。

接種対象者の数についてですが、これもひとしきり今回の市の6月の定例議会でも話題になったところではありますけども、16歳から64歳までについては、一般の方が44,000人、基礎疾患を有する方が推計値ですけど3,000人位かなと。それから高齢者施設の従事者は1,500人位かなということで、合計で言いますと、48,500人位なんですかね、それから12歳から15歳までの方については3,200人を対象としておりまして、合計で言いますと、51,700人ほど接種対象者はいるとそういう理解でいるところでございます。なお、この人数には、医療従事者等は含まれておりません。

次に5番目、65歳以上の高齢者のワクチン接種状況、ちょっと古いかないと思っておりますが、6月23日現在の接種率ですけども記載のとおりでございます。

それから、本市へのファイザー社製ワクチンの供給見通し等についてでございますが、ご存じのとおり、集団接種、個別接種、ファイザー社製のワクチンでやっておりますし、今後12歳から15歳までについてもファイザー社製ワクチンを接種のことと国から指導も入っておりますので、そのことも踏まえた上で、見ていただければと思っておりますけれども、高齢者分としては、64箱ということで、回数分は72,000回程がやってまいります。高齢者分ですから、大体7月までにはほとんど打ち終えるかなという理解でおります。

あと、それ以外に一般の分としては、現状では34箱、7月から9月供給分ということで、国から示されている数値がこの量でございます。一番最後の所、平田会場での集団接種を運営するために必要なワクチン量という所を参考にさせていただきたいのですが、8月、9月、10月で66.6箱、67箱近くが必要になるという、計算上になっております。そうしますとやはり圧倒的に足りないということが、現状ではですね、足りないということがお分かりいただけるかなと思っておりますので、今後ファイザー社製ワクチンの供給状況が分かり次第、順次予約の方を受け付けていきたいなとそんな思いでいるところでございます。

なお、これ以外にも例えば職域の接種というのもありまして、現在私どもが今掴んでいる情報では職域については2社ほど、2団体程と言いましょかね、国に申請をしているという情報は掴んでおりますけれども、国の方も、職域接種についてモデルナのワクチン確保がなかなか見通しが見つからないということで、申請は停止をしているようではあります。その辺の状況によっては、ファイザー社製ワクチンを接種する対象の方々が減ってくる可能性もありますので、その辺も見極めながら今後予約の受付の開始等を見計らっていきたいなとそんな思いでいるところでございます。ワクチン接種に関係については以上でございます。

【ニュージーランド・トライアスロンチームの事前合宿及びパブリックビューイングの中止について】

市長／次がですね、山形新聞さんで今日記事にもうされていましたが、ニュージーランド・トライアスロンチームの事前合宿及びパブリックビューイングの中止につい

てでございます。詳細は、資料を見ていただければなと思いますけれども、酒田市は、東京 2020 のオリンピック・パラリンピック競技大会のニュージーランド・トライアスロン代表チームのホストタウンとして事前キャンプの受入れに向けて準備を進めてきたところでございます。

しかしながら、先週 6 月 25 日金曜日ですけれども、ニュージーランド側から、新型コロナウイルス感染症対策のための行動制限により生じる選手への負担、これは日本側の行動制限ですね、によって生じる選手への負担、それから大会に向けた十分な準備ができない懸念がある、そういったことを考慮した結果、やむを得ず事前合宿は行わないで、隣国、オーストラリアで調整したいという申し出がございました。

大変残念でありますけれども、何と云ってもオリンピックに出場する選手が第一でございますので、この申し出を受けて、選手の調整を最優先に頑張してほしいなということをお願いし、本市での事前合宿につきましては中止をすることと決めたところでございます。

トライアスロンニュージーランドチーフエグゼクティブのクレアベアードさんという方がいらっしゃるんですけど、これまで入念な準備、それから前向きな提案をしていただいたにも関わらず、苦渋の決断をしたこと、大変申し訳ないというコメントをいただいております。

選手団の事前キャンプは残念ながら断念をしますけれども、予定していた本市の小中学生との交流ですとか、大会前のオンライン交流などはやっていきたいし、今後も酒田との関係は継続していきたい、このようなお話があったところでございます。

本市といたしましても、東北公益文科大学を懸け橋とした交流ですとか、ニュージーランドをお手本とした共生社会の推進など、オリンピック・パラリンピックのレガシーとして、今後もニュージーランドとの絆は大切にしていきたいなとこのように考えております。これまで事前キャンプ受入れに向けて、ホストタウン登録に向けてはですね、我々も市の特に職員の皆さん頑張ってくださいました。2016 年 12 月にホストタウンになって、2017 年、1 年後にはホストタウン推進協議会という組織も立ち上げて、市民を巻き込んでニュージーランドのトライアスロンチームの応援体制を組んだところでございましたし、2019 年の 10 月には共生社会ホストタウンにも登録をした上で、ニュージーランドの社会システムをしっかりとこの酒田にも根付かせていきたいなという思いで、頑張ってきたんですけれども、今回は本当に残念だなと、みんな一丸となって頑張ってきたんだけど、仕方がないよねということで、今回は受け入れることにしたものでございます。

あわせて、今回にぎわい健康プラザで実施を予定しておりましたパブリックビューイングですね、これにつきましても、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止という事で決定をさせていただきました。

なお、事前キャンプは中止になりましたけれども、ニュージーランドの選手団と小中学生とのオンライン交流は予定どおり実施をいたします。別紙に詳細の中身も準備してございますけれども、市内の小中学校 6 校と選手団をオンラインで結んで交流をいたし

ます。6校で約500人の児童生徒の皆さんが英語で酒田を紹介したり、応援団の格好で壮行式をしたり、ニュージーランドについて学習した成果を発表したりしてくれます。また、選手達へ英語で質問したり、応援メッセージを送ったりもいたしますので、是非その辺り各報道機関の皆さんからは取材をいただければと思います。

それから選手達やニュージーランドの関係者の方々、ニュージーランド大使館、オークランド日本人会の皆さんを対象にして酒田の観光名所やおいしいもの、魅力を紹介して、今後の交流に繋げるためのオンラインツアーも実施することにしております。これは、国のモデル事業として実施するものでございまして、ニュージーランドやオーストラリアでキャンプ中の選手達、トライアスロン・ニュージーランド事務局、オークランド日本人会などと、相馬樓をZoomで繋いでライブ配信をするものでございます。メインMCは、全日本空輸株式会社のキャビンアテンダントさんと、ニュージーランド出身で酒田市ホストタウンアドバイザーのティム・バンディングさんで、酒田舞娘の演舞や芸妓のトークなどを楽しんでいただく予定です。詳細については別紙ということで資料にまとめてございますので、是非こちらの方も取材方よろしくお願いをしたいなと思います。

ニュージーランドチームの事前合宿、やはり向こうは季節が全く逆なんです、なので早めに気候に慣らす意味でもこの酒田にやってきました、練習をしたいという意向は非常にあったんで、私どもも何とか力になればということで、国の指導も受けながらコロナウイルス対策に留意しながらですね、受入れ体制、万全な体制を組んでおったんですけども、やはりあのトライアスロンという競技がランとバイク、自転車ですよ、室内でやる競技でないものですから、一つの会場を貸り切ってそこで感染対策を徹底した上で練習をするということがなかなか難しい。

公道を走る、自転車で公道で走る、そういうどうしてもオープンな環境の中でやらざるを得ないということに対して、そこに色々、行動規制が掛かりますと選手達のモチベーション、ストレスが溜まる、モチベーションが落ちる、そういったことが色々あって、ニュージーランド側としてはキャンプを本番の大会直前まで、オーストラリアでやって、オーストラリアはでかいですから暖かいところがありますので、そこでやって体を造って日本に乗り込むとこのようなスケジュールを固めたと伺っております。そんなことで本当に残念ですけど、事前キャンプについては、断念をさせていただきました。以上でございます。

記者／もしご存じだったらお伺いしたいのですが、代わりのオーストラリアでの合宿というのは、もともと今回5日から18日間、酒田でやる事前キャンプの予定だったと思うんですけど、オーストラリアでの合宿の日程とかはご存じでしょうか。

市長／オリンピックの選手村に5日前でないと入れないんですよ。だからそれに合わせてオーストラリアから入ってくるだろうと、このように思っております。

空港から真っ直ぐ選手村に入るというスケジューリングだと思いますので、ぎりぎりまでオーストラリアのゴールドコースト、私は行ったことが無いので分かりませんが、暖かいところなんだと思いますけど、そこで練習をするということでございました。

ニュージーランドは、新型コロナの封じ込めに成功した国ということで、国全体でもまだ山形県くらいしかいないんですね。感染して亡くなった方については、山形県よりはるかに少ないということで、徹底して感染防止の政策を国挙げて打って成功した国ということもありましてですね、日本はそうじゃないものですから、かなり酒田に来るにあたって、酒田の地においても、かなり職員が全部アテンドをすとかですね、色々自由な環境で練習が出来ない体制になっちゃっているわけですね。これは国からそういうふうに指導が来ていますので、その辺がやはりストレスになると判断をされたのではないかなと。ただし体制を組んで下さった酒田市の皆さんには大変感謝しているという言葉はいただいているところでございます。

記者／事前合宿をそもそも行うための条件としては、トライアスロンなので先程もおっしゃったんですけど、ランとバイクは公道での練習は当然、距離もあるので想定される場所なんですけども、公道で一箇所で職員が立ち会って市民との接触を制限というか、立ち会わなければいけないんですか。

市長／そうです。職員が常に随行するんですね。だからその辺の息苦しさ、本当はドァーと走って、住民の方々と気軽に話し、手を振ったりしながらやれたら良かったんだろうし、我々も本来はコロナが無ければ、そういう交流みたいなものも期待をしておったわけなんですけども、やはり今はそういう自由な行動を取られると困るということで、職員の管理の下で全部するというそういうことが、条件になっているものですから、その辺も直前まではそれもよしということで了解を得て調整をしておったんですけど、やはり選手団、それからメディカルドクター達の選手への精神的なストレスみたいなものをきちんと評価した上で、やはり事前キャンプは止めようという判断に至ったようです。

記者／ちなみに、中止が決まる前の事前キャンプの予定地、スイムが光ヶ丘のプール、宿舎は公益大だったと思うのですが、ランとバイクについてはどこで行う予定だったのでしょうか。

市長／宿舎も公益大のそこでは無くなったんですけど、市内のホテルに変えて市民とあまり接触しないような環境を整えていたんです。ランについては、陸上競技場も押さえたんでしたよね。バイクはそういう会場はないので、どうしても公道上ということで。北港緑地だとか広い空間がありますよね、そういうところもランなんかは可能だったんですけども、やはりバイクはそうはいかないので、そういったところをチームもやはりこれではねということになったんだと思いますけれども。

地域創生部長／選手の皆さんが団体で、何時から何時までトレーニングをするということではなくて、個々の選手のトレーニング方法に合わせて、自由に動き回るような感じなんですね。ですから、それもかなり制約としては負担が掛かって、その一人ひとりの選手に必ず誰かが付かなければならないとか、一人にさせない、市民と接触をさせない、そういうことの制約が出てきたわけですから、今回、向こうの方からはご遠慮したいということになりました。

記者／それぞれの選手のコンディションに合わせてそれぞれの方がやると思うんですけど、事実上バイクの練習がこっちではできなかったということですか。そういうことで

はないんですか。

地域創生部長／いや、やることはできた。できたんですけども、そこに何時から何時まで職員がこうやって付いて、そこに合わせたトレーニングをする。別の選手は別の選手で、また時間をずらして、やっていくとか、そういった様々な条件があった。

記者／そうした時間的な制約と常に市がOKを出しているとは言え、随行してもらう精神的なストレス、練習内容の制限等から判断したとみられるということか。

地域創生部長／そうですね。ある意味、管理されているような雰囲気もあるんでしょうね。そういったことを負担だというふうに思ったと思います。

市長／確か、PCR検査も全部やるんですよね。毎日、PCR検査をやるとかね、色々な規制があるものですから、それよりだったらということだったと思います。

記者／もともと来る予定だった人数は、選手が男女各3人とコーチ合わせて10人位だったでしょうか。

市長／はい。10人程度ですね。

記者／今回、パブリックビューイングも含めて中止ということで、ちょっと残念なところ恐縮なんですけども、予算の措置としては、酒田市の当初想定していた予算と、中止になることでどれくらい減額になるのか、分かればちょっと教えていただきたいんですけど。

市長／今のところ分からないですよね、まだね。やっぱり、ホテルとか準備して下さっている所のキャンセル料とかも出るわけですよね。なので、国の予算で措置できるところもあれば、措置できないところもありますので、これから少し精査したいなと思います。

【カーボンニュートラルシンポジウムを開催します】

市長／次がですね、これも今回の議会でちょっと顔出しした所はありましたけれども、カーボンニュートラルシンポジウムの開催についてということでございます。酒田市、それから商工会議所とですね、カーボンニュートラルの実現に向けて、産業界、地域住民、そして行政が一丸となって経済と環境の好循環に取り組んでいく契機とするために、経済産業副大臣の江島 潔氏をお招きして、カーボンニュートラルシンポジウムを開催することといたします。

実は5月の下旬で予定しておったんですけども、東京の緊急事態宣言等もあってですね、実は延期をさせていただいておりました。その意味では緊急事態宣言の発出が解けているので、8月という日にちを設定して、オリンピックの期間中ではありますけれども、設定をさせていただきました。

背景としては、改めて申し上げるまでもなく、昨年、2050年のカーボンニュートラル宣言みたいなことが国でされ、さらに2050年のカーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略を国が策定をして、この6月にも一部改訂しましたけれども、国を挙げてエネルギー、経済と環境の好循環に繋げるための施策を進めようとしているわけでありまして。

酒田市もですね、再生可能なエネルギーに係る取組みをまち・ひと・しごと創生総合

戦略の中でも定めておりますし、エネルギー政策をどんどん進めていこうという意思表示も示している所でございます。そうした酒田市の動きを加速するために、実は国をオブザーバーに加えて、去る6月3日の日に山形県とともに酒田港基地港湾等カーボンニュートラルポート連携会議という組織を立ち上げたところでございます。これも一定程度報道されておりますけれども、地元企業の産業育成をはじめとして、関連企業の酒田への誘致、立地そういったことを念頭に置きつつ、カーボンニュートラル社会の実現と経済発展を、是非この酒田で両立させていきたいとこのように考えているところでございます。

今回のシンポジウム、これはそのきっかけとなってくればなという思いで、開催するものでございまして、特に地域の皆さんには、カーボンニュートラル社会実現に向けて産業構造の大変革がもう起こっているんだよということを地元の皆さんが、当事者意識を持って考えていただく、そのきっかけになればなということで企画をした所でございます。

日にちはですね、8月の2日午後1時半から午後4時30分までということで、会場が市民会館希望ホールでございます。定員としては、400名を予定しております。中身としては、基調講演を経済産業副大臣の江島 潔先生、特別講演をですね、そこにもございますけれども、公認会計士であります加藤 俊治先生からお話をさせていただきます。その後、実はパネルディスカッションを予定しております、このパネリストには、江島副大臣それから山形県からもできれば知事さん来てくれないかなということで、私どもで今ラブコールをしている最中でございますけれども、山形県からもどなたか出ていただいて、そして東北エプソンの外山社長さんですとか、地元で風力発電をやられている加藤総業の加藤社長さんですとかですね、こういった方々からお集まりをいただいて、パネルディスカッションをしたいなと、このように予定をしているところでございます。

この江島副大臣はですね、実は酒田へも何回かお見えになってまして、以前は酒田港、港湾振興の関係で力を発揮していただいた国会議員の先生でございます。酒田大好きな方なんです。そういった意味で我々も交流があるということもひとつ踏まえてですね、是非今回酒田に来て経済産業副大臣という立場で色々な情報をいただきたいということで、お願いをしましたら快くお引き受けいただいて、5月延期せざるを得なくて大変残念だったんですけど、なんとか8月2日おいでいただいて、この地域に刺激になるような色々な情報、お話をお聞かせいただければ有り難いなとこのように思っております。

本当に心配なのは、コロナの関係だけでございまして、オリンピックということもありますけれども、大変なことに日本全体がなっていなければいいなとそれを願うばかりでございまして、是非このシンポジウムを成功に導いて酒田の発展の弾みにしていきなとそんな思いでいるところでございます。こちらの方もPR方よろしくお願ひしたいと思ひます。以上です。

【生理用品サポート事業を実施します】

市長／それでは4点目ということで、生理用品サポート事業の実施についてでございま

す。これも、今回の6月議会、補正の時の説明で総務部長から若干の説明があったんじゃないかなと思いますけれども、今回の6月補正予算によりまして、生理用品サポート事業を実施することといたしました。

この事業は、今年の4月頃でしたでしょうかね、特にNHKさんで取り上げられておりましたけれども、生理の貧困として報道機関で少し脚光を浴びておった話題でなかったかなと思っておりますが、ちょうどその頃、地域の女性有志グループの皆さんからもこの問題に真剣に取り組んで欲しいということでの要望があったことをきっかけにいたしまして、日本一女性が働きやすいまち、これを標榜している酒田市としてもですね、前向きにとらえて、なんとか生理の貧困に対する施策を行えないものかなということ、この程取り組むこととしたものでございます。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりまして、大変経済的な困窮のほか、家族の事情など何らかの理由で生理用品を用意することが難しい方に、生理用品の配布を市が行い、支援をしようというものでございます。

具体的には、その資料にもございますけれども、15枚入りで2,000パックの生理用品を用意するほか、実は防災備蓄品としてもこれは用意してあるんですね、でも、利用可能な期間が、何と言うんでしょうね、賞味期間じゃないですけど、有効期間がありますので、その前にそういった防災備蓄品なども活用して女性の方や市内の小中学校、高等学校、大学、専門学校等に通う児童生徒学生さんに配布することとしたものでございます。配布の方法については、市役所、それから市の健康センター、それから中町の市の交流ひろば等の公共施設で配布いたします。窓口で希望者に手渡しをするという配布方法を取りたいと思っております。

また、生活保護を受給している世帯などには、個別に対応するほか、地域福祉センター、社会福祉協議会に入っておりますね、新橋の地域福祉センターや子ども食堂などでも配布してもらうことを考えているところであります。配布にあたりましては、必要な方が負担なく受け取ることができるように意思表示カード等の提示による受取りや、女性職員の対応など十分配慮して行いたいなとこんな思いでおります。

小中学校・高等学校では生理用品を保健室にストックをして、養護教諭を通して児童生徒に手渡していきたいな思っています。それから、大学、専門学校、学童保育所では、事務室等において手渡すことを想定しているところでございます。

それぞれの学校等の状況に応じて、もっと効果的な方法があればその方法によって配布をしていきたいなと思っておりますし、小中学校、高等学校では生理用ナプキンのほかに、生理用ショーツの配布も行うこととしています。また、この事業の取組みを通じて、経済的な困窮ですとか家庭的な背景など様々な事情を抱えている方もいらっしゃるかと思いますので、相談があった場合には丁寧に話を伺って、それぞれの関係機関とも連携しながら、そういった困った方々への対応についても、市として積極的に関与していきたいなとこのように思っております。

あとは、この事業を周知するためということになりますけれども、具体的には、生活困窮相談ですとか、子ども・家庭総合支援室での各種相談のほか、相談窓口の周知を

図るために、配布する生理用品の袋に相談先のチラシなども入れさせていただいて、困難を抱える方が相談しやすい環境づくりに市としてもしっかりと取り組んで参りたいなどそんな思いでいるところでございます。以上が生理用品サポート事業の概要でございます。

■代表質問

【副知事の不在状況について】

記者／通告もしておりましたが、実際には市として答える立場でもないというのは理解した上なんですけど、県の副知事の不在という状況が続いております。以前も同じような質問をさせていただいたと思うのですが、未だに空席というか、決まっていない状況というのは、市長としてどのように捉えていらっしゃるかとということをお聞かせください。

市長／やっぱり組織としては異常な事態ですよ。県という組織の中でいるべき人がいないというのは、これはやはり大変な問題だなとこのように私も理解しております。

私も市長になった時にですね、副市長は5か月間いなかったんですよ。あの時は初めて市長になったばかりだったので、副市長をどなたにするか含めてですけども、頭を悩ませましたし、その間1人だったということで全部自分に被さってくるわけですよ。特にやっぱり市役所内部の調整ですとか、そういったものについてはかなり業務的には大変だったなという思いはちょっとあります。ただ、私の場合はずっと市の職員でしたから、そういう面では幹部の皆さんが全部顔見知りでしたから、そんなに負担感は無かったですけれども、県庁という組織は市役所の比じゃないですからね、組織の大きさ、それから広いエリアを所管しているわけですし、そういう意味では副知事という重責を担う方が不在だというのは知事さん大変だなという思いで、この間ずっと捉えてきたところでございます。

山形県当局と県議会との関係の話ですので、私どもが踏み入ってどうこういう話ではないなとこのように思っております。これは以前もお話したとおりでございますので、感想としては、なるべく早めにおいて通常の状態の県政として動くのが望ましいのではないかなとこんな思いを持っております。

記者／補足なんですけど、先程のカーボンニュートラル等なんですけど、酒田市としては県とのいろんな連携する事業というのは今後多いという所も踏まえてということでしょうか。

市長／そうですね。私どもはやっぱり産業振興という面では、酒田港をやはり核としてですね、この地域の産業形成を図っていきなという思いがあります。それは再生可能エネルギーだったり、それ以外でもいいんですけどもね、基本的にはエネルギーの事業者が集積している港湾エリアだと認識からすると、やはりそういった部門で産業振興を図っていきな。その場合、どうしても港湾管理者である山形県が主体的に動くということが大前提になってくるものですから、やはり県との関係をしっかりと持ちながら、県と一緒に様々な産業振興を港湾エリアについては図っていく。

それから、カーボンニュートラルの件で言うと、港がやはりエネルギーの面で化石燃料を使った船もそうですけど、色々なカーボンニュートラルを考える上ではやはり港という施設を、まずカーボンニュートラルでどう取り組んでいくかということが、これからの国としてもですね、大きな柱になってくるということがあって、それはカーボンニュートラルポートということになるわけですけども、それを進めるにあたって、やはり国、県そして港湾がある市と、この三位一体でですね、取り組んでいくことで、全国いろいろな所があるわけですね、港があって国と県と連携をしながらそういう戦略を練っている地域は数多くありますので、そこに負けないで山形県、酒田市、そして酒田港が発展していくための仕掛けというのは、やはり三位一体で力強く連携して進めていく必要があるんだろうなと思いますので、やっぱり洋上風力発電もそうですけど、港もそうですけど、主体になるのは山形県ですから、県との関係は非常に大事ななところだと思います。

■フリー質問

【ワクチン接種について】

記者／ワクチンの職域接種に関してご質問なんですけど、自分たちの取材の結果で申し訳ないんですけど、いろいろな事業者さんに職域接種とかどうですかということで、庄内、酒田の事業者さんに聞いたところ、お医者さんの数が限られていると。個別接種、現在進んでいる集団接種と、そこで要はお医者さんを取りあって、どっちも進まないということはあってはならないということで、間に行政なり医師会の方が立って、お医者さんの確保で交通整理があつたら、ひょっとしたら出来るかもしれないとおっしゃっていた事業者さんがいらっしやいまして、大規模接種も今後は64歳以下の接種で行われるということなんですけども、現時点でなかなか難しいとは思いますが、どこまでが市の役割かというところとちょっと微妙な所ではあるんですけども、何かそのお医者さんの確保に関する交通整理とかそういったところを話し合う予定というか、間に立つ予定というか、本来の市の業務かというところと微妙なところではあるんですが、そうした考えはあるんでしょうか。

市長／この地域にあつては、その業務も市の役割だという認識を持っております。そういう意味で、実は定例で開催しております医師会、それから山形県・酒田市病院機構と連携をする中で、職域接種への対応の仕方についても意見交換をして、希望があれば市が積極的に調整に入りますよというところまでは、一応皆さんと確認はしております。従って今回の2団体と申しまししょうか、申請についても市が中に入ってお医者さんの調整をさせていただいたところがございます。

現時点では1,000人を集めるとなるとそんなに酒田の場合は、企業としてはあるわけではないですね。ですからそこはいろいろな調整が必要なんですけど、複数の事業者で1つ塊を作るというのもこれもありなんだと思います。そういったことも含めて職域接種をどんどんするということが、集団免疫を高める1つのきっかけにもなりますし、後々の我々がやっている集団接種の、接種日とか接種量の設定にも関わってくる話です

ので、決して悪い事ではないので、やっていただけるところであればどんどんやっていいのかなど。ただ他の所でやっているより、うちは大学病院があるところでもないですし、そういったお医者さんがいっぱいいるという地域でもないの、そういった面では、限られた医師会と日本海総合病院しかないわけですね、基本的に。その中で医師、看護師の確保については調整をしていかざるを得ないので、従って本来職域は個別に医療機関に折衝して確保して接種をするんですけど、それはなかなかうまくいかないけれども、市が間に入って調整をして接種をしてもらうということを整理した上で、国に申請をしてもらおうかなと思っています。

本来であれば、もっともっと、いろいろな仕掛けができたんですけども、国が丁度タイミング悪く、予約を中止すると話を出しちゃったものですから、ちょっとここで止まっちゃったんですけど、ぎりぎり2団体ほど申請には間に合ったということですが、まだ具体的な日にちだとかは何も、国の方からは指示が無いとか、示唆がないということなので、モデルナの確保がしっかりできればですね、職域接種の推進についても市が調整役を果たして、医師会はなかなか厳しいので、考えられるのはあと、日本海総合病院からお医者さんを派遣してもらおうとかですとかね、そういったことが可能であるのかどうかも調整しながら、職域接種についてもしっかりと協力していきたいなと私どもは思っております。

記者／歯科医師会からの協力で、歯科医師会のみで30人なのか。

市長／そうです。今までは、医師会からは、もう日本海総合病院も含めてですけども、集団接種については人員を出していただいて協力していただいているんですけども、今後、歯科医師会からもご協力をいただけるということで、アンケートによると30名の先生方が協力するよと言っているということですので、体制が非常に組みやすくなったということになるかと思えます。

記者／それまでは、何人の医師がトータルで関わっているのか。

健康福祉部長／分らないです。相当数としか。

記者／そこに、酒田歯科医師会からは30人ということか。

市長／そうですね。プラス30人ということで、歯科医師会の皆さんがご協力をいただけるということになります。

記者／すみません、もう一点だったんですけど、12歳から64歳までのワクチン接種体制についてということで、60歳から64歳までは8月1日から開設される大規模集団接種会場になるということだったんですけども、59歳以下については9月以降になると、先程聞いたような気がするんですけど、それは間違っていないですか。

市長／9月以降というわけでもないんですよ。ただ予約がですね、ワクチンさえ確保出来ればそこで予約枠が増えますので、申し込みできるんです。

それが、実際今、8月も足りなくなる、64歳以下まで拡大するとなると、足りなくなる、なので完全に設定日を全部埋めきれない訳ですね。ワクチンが無いですから。そういう意味では、ワクチンがきちっと8月にもっと確保できるようになれば、そこで予約

できるようになりますので、予約開始ができるということになります。

記者／9月以降というのは何の話だったのでしょうか。

市長／歯科医師会の人たちが協力してくれるのが、9月以降ですね。30の方が実際に医療スタッフとしてワクチン接種に協力いただけるのが9月以降ということで。その間、研修会を受けたり、いろいろしなきゃいけないんだそうです。

記者／追加でお聞きしたいんですけども、接種人数、水・木が1,000人、土・日が2,250人となっているんですけども、スタッフの数としてはどのくらいになりそうですか。

市長／トータルですか。それともそれぞれですか。

記者／1日で何人くらいのスタッフが対応にあたるのか。

健康課長／お医者様は、いずれにしても常時5人という想定でおります。打ち手になります看護師さんは介助と合わせて常時10人。土日ですと、午前、午後で交代していただいておりますので、人数的にはその倍が必要になるということになります。それ以外に、予診を担当していただく所だったり、薬液充填と言って実際注射針にバイアルから薬液を取り出すような看護師さんも現時点で想定だと10人位必要になるかなと思っておりますので、看護師さんで、その日によって少し違うかもしれないんですけど、20人位は常時必要になる。

医師が常時5人必要ということですが、先程市長からあったように、ここは地区医師会、それから地区の薬剤師会、病院機構からの応援で、既に8月分は全て医療従事者の枠は埋まっております。9月が今後具体的な医療従事者の配置を調整しますが、そこに歯科医師会の先生も今度打ち手として、協力いただけるということになりますので、看護師さんの分の負担と言いますか、そこが軽減されると言いますか、連携して構築できるということでございます。

記者／常時というのは、土日だと午前、午後あるので、午前5人、交代になるにしても午後また別のお医者さんが5人ということか。

健康課長／そのとおりです。

記者／先程、市長がワクチンの必要な量が現状で圧倒的に足りないとおっしゃったと思うんですけど、資料に頭が付いて行ってないんですけど、どこの数字とどこの数字をみると現状では圧倒的に足りないというふうに理解できるのかなと教えていただけたら。

市長／これ難しいんですけど、今資料見ますよね。裏面見てもらうと分かると思うんですけど、6番の所の端的に言うと一般分34箱となっておりますよね。39,780回、7月～9月までの供給分となっておりますけど、一番下に集団接種を運営するために必要なワクチン量、結局その集団接種会場みんな満杯に埋まるとすると、これくらい必要ですよという話になるわけですけども、この差を見てもらうが一番良いのかなと思います。分かりやすいという意味ではですね。

34箱しか来ないんですけども、7、8、9の3か月ですけど、基本的に8、9、10の3か

月というのは、67 箱ぐらいないと回らないという話、そういう表になっているんですけどね。これを見てもらうと歴然と足りないというのが分かるんじゃないかなと思いますけども。

結局一般分 34 箱というのは 8 月、9 月は 11、12 箱ずつしか来ないという理解ですよ。仮に一箱くらい多めにみても、12、12、11 で 34 になるわけです。だからひと月にそれくらいしかこないけども、8 月分は 22 箱必要だと見ただけでも、全然足りないということが分かってもらえるのかなと。

もっと専門の職員は細かく分析してるんですけど、私どもは頭が単純なものですからこういう表記でないとすんなり入ってこないの、ここを見て足りない分というのを把握してもらえればなと思います。

記者／もう一点なんですけども、65 歳以上の高齢者へのワクチン接種状況と高齢者分の供給見通しの所なんですけども、高齢者分については 4 から 6 月までに 36,000 人分供給されているというふうに数字を見ていいんですか。

市長／はい。

記者／それでこの 5 にある接種者数 17,700 人とかございますけども、そちらの数字の関係というのは、36,000 人分のワクチンが供給されているけれども、今のところ打ち終えた方は、17,000 人ぐらいしかいないというふうに理解すればいいですか。

市長／そうですね。結局 2 回目の方の分も入っているわけですよ。このワクチン量には。なので、これは 6 月 23 日現在、5 番目の資料でいうと酒田市の 1 回目と 2 回目を足した分ということなのかな。

健康課長／そうですね。実績としては 1 回目と 2 回目を足した分が接種回数、済み回数ということになります。が、実際供給されたものをその段階で全て打てるかという、先程市長からの話にも少しありましたが、国からワクチンの量が確定するのが、1 か月前にならないと確定しないのです。6 月末までということですので、供給については見込みということで 64 箱来ると見込みなので、一般的にワクチンが来るとすぐに打てるというふうに、一般的に思われている方も多いんですけど、実際は来たからといってすぐにそれを打てるかという、なかなか現状厳しいところがあって、これはどこの市町村も同じではないかというふうに思っております。予約の取るタイミングだったりで少し、やはり若干のラグは生じます。

記者／担当大臣の河野さんが、どこかで溜まってたりするんじゃないかみたいなことをおっしゃっていたので、ちらっと気になったので。そうすると決してそういうわけではなくて来た分については、順次打ってはいるんだけれども、そういったタイムラグが生じている可能性はあるということなんですかね。

健康課長／国からくるワクチンに一応、高齢者分と一般分という色分けをしているので、こういう表記をしましたが、実際、国からは高齢者分は全ての高齢者が 2 回打てるワクチンを供給するというふうに言っておりますので、実際全ての方が打つかということになった場合、接種率が 90%だったり、85%であれば、その差は余りますが、それは今度 64 歳以下の一般の方に当然接種していくということになりますので、区分上、分かり

やすくするためにこのように一応表記をさせていただいた所ですけど、それでも先程市長が申し上げたとおり、ワクチンの供給が非常に見通しが、見通せないという所が集団を本格的に進められない原因であるという所であります。